

事業名	新架橋	担当部局	管理局開発計画課
政策分野	防衛装備の適正な維持・管理（研究開発）	実施時期	平成14年6～8月

事業の内容 81式自走架柱橋の後継として、高強度、大スパン単径間橋（橋脚がなく長い架橋）で、自動化により少ない作業隊力で迅速に架設できる新架橋を開発する。	<table border="1"> <tr> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>完了年度</td> </tr> <tr> <td colspan="4">                     ← 試 作 →                 </td> <td>17年度</td> </tr> <tr> <td colspan="4">                     ← 技術試験 →                 </td> <td>経費総額</td> </tr> <tr> <td colspan="4">                     ← (実用試験) →                 </td> <td>約32億円</td> </tr> </table>				15	16	17	18	完了年度	← 試 作 →				17年度	← 技術試験 →				経費総額	← (実用試験) →				約32億円
	15	16	17	18	完了年度																			
← 試 作 →				17年度																				
← 技術試験 →				経費総額																				
← (実用試験) →				約32億円																				
所要経費 約32億円（後年度負担額を含む。）																								

評価の内容

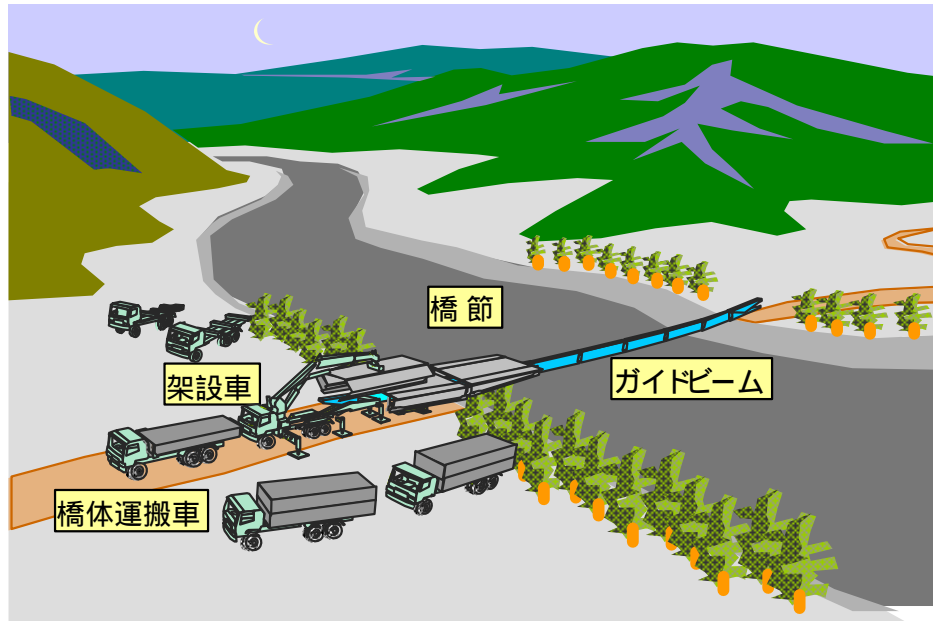
事業の目的 現有の81式自走架柱橋は、陸上自衛隊の施設科部隊が作戦地域の河川、地隙等に架設して第一線部隊の機動を容易にするための装備であるが、90式戦車や99式自走155mmりゅう弾砲等の通過に対応できない。また、架柱を使用するため流速等の影響を受け洪水時に架設できないこと及び架柱設置工事に長時間と多くの作業隊力を必要とする等の問題点を有しており、有事及び災害時に迅速かつ実効性ある対応が困難である。このため、師団の全車両に対応し、流速等の制限を受けず、少ない作業隊力で迅速に架設できる、高強度・大スパン単径間のトラック搭載橋で自動架設できる新架橋を開発する。	事業実施の効果・時期 1 事業実施の効果 師団等の戦力の迅速な移動及びテロ活動やゲリラ・特殊部隊等による攻撃への対処、災害派遣等、多様な事態への有効な対処が可能となり、機動支援能力の飛躍的な向上が期待されるとともに、民生品の活用、部品の共通化等により現有装備とほぼ同等の価格に抑制できる。また、新架橋の開発成果は、災害用の橋梁迅速復旧技術として民間への波及が期待できるとともに、自動化技術等は他の装備品等の性能向上に反映できる。 2 事業実施の時期 平成15年度及び平成16年度に試作、平成17年度に技術試験を実施し、開発を完了する予定である。
--	--

事業の必要性・適正性 90式戦車等の重車両を通過させることができる機動支援橋機能は現在欠落しているが、高速流動化する将来戦においては機動支援の重要性がさらに増大する。また、災害派遣やテロ、ゲリラ・特殊部隊等による攻撃等の多様な事態は今後益々増加することが予想されるが、現有装備はその構造上、これらの被害に柔軟かつ有効に対処するために必要な能力（河川克服力・迅速性）に限界がある。さらに、現有装備が平成19年度から損耗更新時期を迎える中、仮にこれらを継続使用する場合には加速度的に嵩んでいく維持修理経費を最小限にとどめる必要があることから、可能な限り早期の装備化が必要であり、実用試験の期間を考慮すれば平成15年度に試作に着手する必要がある。 現有装備の81式自走架柱橋（多径間橋）については、強度上及び構造上、90式戦車等の重車両に対応し得る改善は不可能である。また、諸外国の類似装備品は橋長、重量等が陸上自衛隊の所要及び国内法令上の制限を満たしていない。これらのことから判断した場合、開発に代わり得る手段はなく、陸上自衛隊の要求を満たす機動支援橋を装備するためには、新架橋の国内開発を行うことが必要である。
--

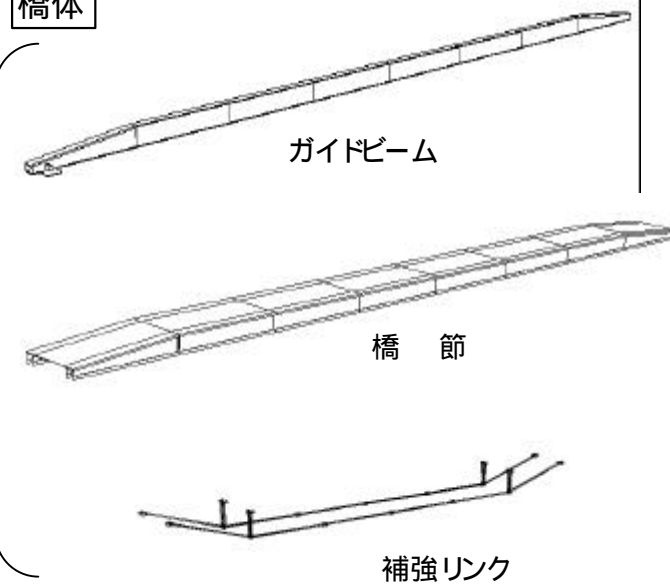
今後の対応

高速流動化する将来戦やテロ・災害等の多様な事態に柔軟かつ有効に対処できると評価できることから、15年度概算要求を実施する。	その他の参考情報 運用構想図：別紙1 現有装備品との比較及び諸外国の類似装備品との比較：別紙2
---	---

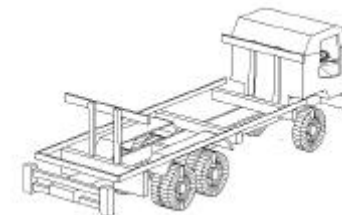
# 運用構想図



橋体



架設車



橋体運搬車

## 現有装備品との比較

	国名	橋長	橋梁等級	橋梁幅員	車両積載性			
					幅	高さ	長さ	質量
新架橋	日本	60m	CL60	4.2m	3.0m以内	3.8m以内	12m以内	25以内
81式自走架柱橋	日本	60m (10m×6)	CL42	3.75m	2.85m	3.4m	9.7m	22.4t

## 諸外国の類似装備品との比較

	国名	橋長	橋梁等級	橋梁幅員	車両積載性			
					幅	高さ	長さ	質量
新架橋	日本	60m	CL60	4.2m	3.0m以内	3.8m以内	12m以内	25以内
LEGUAN42	独 国	42m	CL70	4.0m	<u>4.0m</u>	<u>4.0m</u>	<u>15.2m</u>	<u>43t</u>
DORNER	独 国	46m	CL70	4.4m	2.75m	<u>4.0m</u>	<u>15.3m</u>	25t
B R 9 0	英 国	44m	CL70	4.0m	<u>3.2m</u>	<u>4.0m</u>	12.0m	<u>45t</u>
F B 4 8	スウェーデン	48m	CL70	4.0m	<u>3.2m</u>	3.8m	<u>20.9m</u>	<u>40t</u>

車両積載性の欄中、下線のある数値は国内法令上の制限値を超過。